
Libra の衝撃

— IoM(インターネットオブマネー)と呼ばれるイノベーション —

主任研究員 柏村 祐

<Libra(リブラ)の性質>

Facebook が計画している暗号通貨 Libra (リブラ) が大きな注目を集めている。







Libra の特徴は銀行口座を持っていなくても Facebook のアカウントさえ持っていれば保有することが可能であり、かつ Facebook を通じて繋がっている人や企業と Libra を送受信できることである。昨今日本で話題となっている Pay マネーも同じような機能を保有しているが、Libra は国境を越えて送受信できる。

Libra が目指す世界は「多くの人々に力を与える、シンプルで国境のないグローバルな通貨と金融インフラ」とされている。インターネットが普及している現在では、テキスト、画像、動画などは、国境を越えて瞬時に低廉なコストで送受信できる。

一方、お金については国境を越えるためには銀行口座が無いと送金できなかつたり、送金するためのコストも高額となっているのが現状である。Facebook がそのようなお金に関する社会課題解決のために計画したのが「Libra」である。

Libra で利用するブロックチェーン技術はスケーラビリティ*¹、セキュリティ、柔軟性を重視している。すでに約27億人のユーザーを保有している Facebook のアカウント数にも対応できるスケーラビリティを用意することで、世界通貨になることを目指している。また、当然ながらセキュリティを堅牢にすると同時に、進化するための柔軟性を持ち合わせる。一方、安定した価値を実現するために、Libra はドルやユーロなどの法定通貨を裏づけ資産とする予定となっている。仮想通貨(暗号資産)は価格変動が激しく実用性に乏しいと言われているが、価格変動が起こりにくい設計をすることで実用的な通貨と似た性格を持つことができるようになる(図表1)。

図表1 Libra の性質

 <p>モバイル</p> <p>Libraはベーシックなスマートフォンとデータ通信環境があれば誰でも使える</p>	 <p>安定性</p> <p>リザーブを担保とすることで安定した価値を実現</p>	 <p>迅速</p> <p>送金はスピーディで簡単</p>
 <p>世界中で利用可能</p> <p>グローバルな暗号通貨として、世界中で利用可能</p>	 <p>スケーラブル</p> <p>Libraは製品とサービスのエコシステムを促進し、人々が毎日の生活でLibraを手軽に利用可能</p>	 <p>安全</p> <p>セキュリティを念頭において設計されたブロックチェーンを基盤とする暗号通貨です</p>

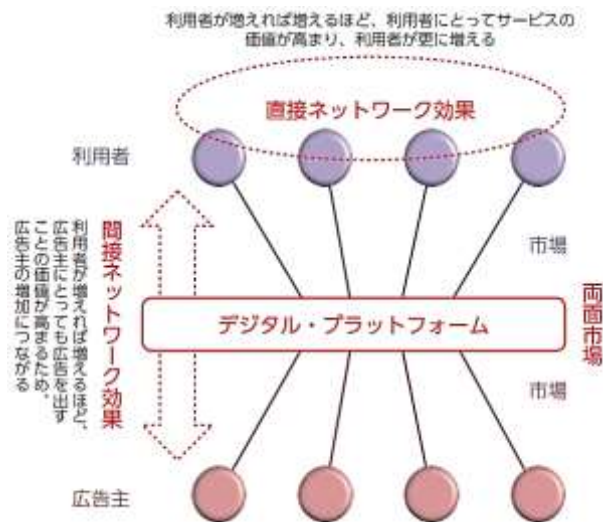
資料：各種資料より筆者作成

Libra とは、古代ローマにおける通貨の単位であり、もともとはラテン語でバランスや正義公正の象徴である「天秤」を意味する。その言葉からも連想される通り、Libra は「金融包摂」を目指している。「金融包摂」とは、世界銀行による定義によれば、「全ての人々が経済活動のチャンスをつかむために、また経済的に不安定な状況を軽減するために必要とされる金融サービスにアクセスできることまたは利用できる状況」のことを指す。現在世界70億人のうち、銀行口座を保有しない人は17億人いると言われており、地球全体の人口の4分の1相当に達する。貧しい人は金融サービスを利用できない現状であるが、Facebook は「多くの人々が安価に金融サービスを利用することは、人々の権利であると考えた結論が Libra 計画である」としている。

<Libra の使用価値>

デジタルプラットフォーマーのビジネスモデルを考える上では「ネットワーク効果」が重要な位置づけを占めている。ネットワーク効果には「直接ネットワーク効果」と「間接ネットワーク効果」の2種類が存在している。検索エンジンを例にとれば、利用者と広告主の2者が登場人物となる。「直接ネットワーク効果」とは、利用者が増えれば増えるほど、利用者にとってのサービス価値が高まり、そのことにより、更に利用者が増えることを意味する。一方「間接ネットワーク効果」とは、利用者が増えれば増えるほど、広告主にとって広告を出すことの価値が高まり、広告主の増加につながることを意味する（図表2）。

図表2 ネットワーク効果



資料：総務省 令和元年版 情報通信白書より

GAF Aなどが提供するデジタル・プラットフォームはネットワーク効果が大きいビジネスと言われており、Libraのミッションを実現するためにFacebookというデジタルプラットフォームを利用することは必然といえるのかもしれない。また、Libraという世界通貨を持続的なものとするためにFacebookは「Libra協会」を2019年6月に設立している。協会はスイスのジュネーブに本部を設置しており、「決済」「テクノロジー」「マーケットプレイス」「通信」「ブロックチェーン」「ベンチャーキャピタル」「非営利組織および学術機関」など様々な組織が参画を表明している。あらゆる分野におけるトップランナーの企業がパートナーとして参加を予定しており、パートナー企業が抱える顧客を巻き込んだネットワーク効果が発揮され、世界を席捲するLibra経済圏を創造する可能性を秘めている。

<想定される課題>

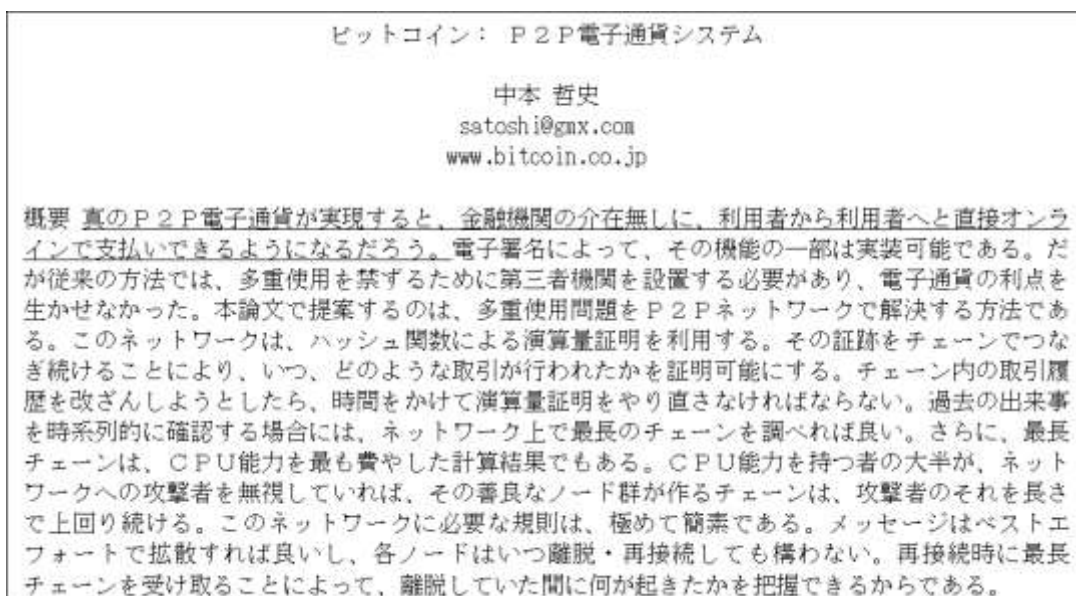
フェイスブックが発表しているLibraに関するホワイトペーパー（≒製品やサービスについて記載した計画概要書）によれば、サービス開始の予定時期は2020年前半となっている。しかし、2019年7月にフランスで開催された7か国財務大臣・中央銀行総裁会議(G7)において、Libraについて“最大限の規制が必要”との意見が出されている。これは現状の金融制度へ影響があることと資金洗浄に利用される可能性があるからと言われている。

金融制度への影響という観点では、既にFacebookの加入者数は27億人に達しており、仮に1Libraを1円とし、Facebookの加入者が1Libraを保有したと仮定すると、27億円のLibra経済圏が出現することとなる。Libra経済圏が拡大することにより、金融システムの不安定化に繋がり、各国が協調して実施する金融政策の有効性を低下

させるおそれすらある。ビットコインのような従来の暗号通貨は価格の変動率が非常に高く、現状では決済手段として機能している範囲は極めてせまいため、各国の金融政策に影響を及ぼす可能性は低いと考えられるが、決済手段に優れた Libra は中央銀行にとって無視できない存在なのであろう。また、本人確認をせずに登録できる Facebook は反社会勢力などの資金洗浄（マネーロンダリング）の利用に使われる危険性が高く、本人確認をどのように実施していくかも大きな課題になるだろう。

2008年10月にサトシ・ナカモトによって、暗号通貨ビットコインの始まりとされる全9ページの論文が投稿されたが（図表3）、その論文の主旨は、お金が銀行口座を通さないP2P電子決済により取引可能となるという衝撃的な内容であった。しかしサトシ・ナカモトの思いとは裏腹にビットコインは価格変動が大きく投機的な商品となってしまう、通貨として決済機能を代替するには至っていない。2019年6月に発表された Libra はインターネット時代の新しい決済手段を目指しているが、各国中央銀行が懸念している課題やリスクを払拭していくことが大きな課題となっている。

図表3 Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System



資料：Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System（英語）1ページ目より筆者和訳

<インターネット時代の決済手段>

筆者は初めて暗号通貨取引のために海外の取引所に暗号通貨を送金した時、銀行口座が無くても海外にお金は送れるのだと実感できたことを鮮明に覚えている。Society5.0が提唱しているデジタルトランスフォーメーションの世界は、現実世界とサイバー空間の融合が肝となる。今後5Gを中心としたテクノロジーの進化により、あらゆるものがつながるIoT（Internet of Things）の世界の到来が予見される。セ

センサーで繋がる世界において、個々に最適化されてきた産業や生活などのあらゆる分野がIoTにより網の目のように繋がる。繋がることにより現実世界での活動が瞬時にデータ化されてサイバー空間に送られ、集められたデータはAIがさまざまな角度から分析することになる。そして分析された結果は現実世界にいる私たちに対して最適解を提案してくれることとなる（図表4）。お金をデータの1つとするならば、銀行口座に依存しないインターネット時代のお金であるIoM（Internet of Money）の登場はお金に関わる様々な作業の効率化に繋がる可能性があるのではないだろうか。

図表4 サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合



資料：Society 5.0 資料 - 内閣府より

フリードリヒ・ハイエクは、1976年に貨幣発行自由化論を提唱している。その中で中央銀行が絶対的なものでなく、市場におけるあらゆる通貨は自由競争することが健全であり、市場に受け入れられた通貨が発展するべきと論じている。Libraはハイエクが予言した自由通貨の形なのかもしれない。テクノロジーが常に規制を乗り越えて発展してきたことは歴史が証明しており、Libraのもたらすイノベーションはインターネット革命と同様に社会を変革する可能性を秘めている。

(調査研究本部 かしわむら たすく)

【注釈】

*1 システムの利用や負荷の増大、用途の拡大などに応じて、柔軟に性能や機能を向上、拡張できるかを表したもの。